



**VANTELIN  
KOWA**



**SUPER  
FORMULA  
RACE REPORT**

Rd.4 @AUTOPOLIS

TEAM  
**TOM'S**

天候：晴れ・ドライ / 気温：21-21℃ / 路面温度：25-28℃

熊本県との県境に近い大分県のオートポリスにおいて全日本スーパーフォーミュラ選手権第4戦が行われた。11月中旬の阿蘇地方は寒さが心配されたが、予想に反して小春日和のコンディションとなった。

今年は、ここまで予選と決勝を日曜日に行うワンデー開催。VANTELIN TEAM TOM'Sのカーナンバー1を駆るニック・キャシディは、予選Q3まで進んだが、思いがけないミスで8番手。世界耐久選手権レース最終戦参戦のために欠場した中嶋 一貴に代わってステアリングを握った宮田莉朋は、7番手のグリッドから決勝をスタートすることとなった。



- キャシディは、Aグループで出走。Q1のトップタイム。宮田は、Bグループで4番手でQ2に進出した。
- Q1においてA、Bグループともにアクシデントによってセッションが中断され、残り3分で最後のタイムアタックとなった。宮田は、このQ1でニュータイヤを2セット使用している。
- TOM'Sの二台を含めて、上位陣はQ1からコースレコードタイムを更新する速さを示した。
- Q2においては宮田がトップタイムを叩き出してQ3へ進出を果たし、キャシディも4番手で最終のQ3へ。
- 宮田はQ1で2セットのニュータイヤを使用したため、Q3ではユーズドタイヤしか残っていなかった。グリップのピークを過ぎたユーズドタイヤでは、7番手に入るのがやっとだった。
- キャシディはコースインしようとした際にエンジンが止まってしまい、再スタートに手間取って、1周目を終える前にセッション終了となってしまった。ノータイムで8番手グリッドから決勝をスタートすることとなった。



Driver	Car No.	Q1	Q2	Q3
宮田 莉朋	36	B-P4 1'25.057	P1 1'24.544	P7 1'25.601
ニック・キャシディ	1	A-P1 1'24.907	P4 1'24.681	P8 No Time

天候：晴れ・ドライ / 気温：21-21℃ / 路面温度：25-28℃



36 / ドライバー

宮田 莉朋

岡山大会と同じく36号車をドライブできるチャンスをいただきました。スーパーフォーミュライツとダブルで走行したのですが、一度経験させていただいているのでドライビングを工夫して上手く切り替えられたかなと思います。しかし、岡山に比べてオートポリスはアクセル全開の区間が長かったので、速度が高く1コーナーのブレーキングのタイミングを見極めることが難しかったです。また、第3セクターのコーナリングで自分の速度が速いのか遅いのがよく分かりませんでした。コーナーはもっとブレーキングを奥にもって行けたかなとか、コーナリングスピードをもっと上げてクリアできたかなという反省もありました。Q2進出をかけてQ1でニュータイヤを2セット使い、そしてQ2ではトップ通過できて速さをアピールすることができました。岡山でフロントローを獲得できたのは、たまたま獲れたのではないことを示せたと思います。ユーズドタイヤで出たQ3は、やはりニュータイヤと大きくグリップが異なっていたのでしょうがないですね。決勝は、上位入賞を目指したいと思っています。



1 / ドライバー

ニック・キャンディ

オートポリスに乗り込んで、最初の練習走行ではタイムがあまり良くなくて、少し戸惑った部分はあったけれど、セットアップを進めていって、予選までには良い感じになった。Q1のトップタイムを見てもらえばそれがわかると思う。Q2も突破できて、Q3で当然ポールポジションを狙っていた。ウォームアップ1周でアタックする予定だったが、時間ギリギリにコースインする時にエンジンをストールさせてしまった。もう一周走りたかったけれど、数秒足らずにノータイムで予選Q3を終えて、8番手。ここから追い上げるしかない。



36 / レースエンジニア

大立 健太

宮田選手には今回もライツとのダブルで走ってもらうことになりました。岡山で経験があるので、ドライビングは良かったと思います。セッションの中断時はQ2進出ギリギリのポジションでしたし、まだ実際にアタックはできていませんでした。Q1は絶対に通過してもらったかったので、中断後の再アタックにもう1セットニュータイヤを使用しました。Q1の状況を聞いて、それをQ2に向けてアジャスト、修正したセットアップを施し、見事にベストタイムを叩き出してくれました。岡山と同じQ2のトップタイムです。宮田選手のドライビングとセットアップが上手くマッチした結果です。Q3はユーズドタイヤで走行せざるを得なかったので、あのタイムが精一杯ですね。

天候：晴れ・ドライ / 気温：21-21℃ / 路面温度：25-28℃



1 / レースエンジニア

小枝 正樹

練習走行の状況からどんどんセットアップを進めて、上手く合わせ込めたと思います。だからこそQ1でトップタイムを叩き出すことができました。調子が良かっただけに、Q3でコースインする時にエンジンを止めてしまったのは痛かったですね。もう少し早くコースインさせていたら、万一エンジンを止めてしまったとしてもちゃんとアタックできたのですが、ギリギリの間合いを計ってコースインしたので、アタック周に入る前にチェッカーフラッグが振り下ろされてしまいました。本当に残念でしたし、反省しています。決勝では順位アップを狙います。そして、レース中に出るであろうセーフティーカーなどの要素を踏まえて作戦を考えます。



チーフエンジニア

東條 力

ニックのエンジンストールは本当に残念ですが、チームとしてはこのようなアクシデントを考えて、もう少し早めにコースインさせるべきですね。コース上の混み具合であるとか、ドライバーの間合いの取り方もあるのですが、最大のミスはエンジンを止めてしまったドライバーにあります。ニックには決勝でしっかり順位を上げてもらいます。そして今回2回目の宮田は、再び彼の速さをアピールしてくれました。器用にライツから乗り換えて、再びライツに戻るという慌ただしいスケジュールをこなしてくれています。



総監督

舘 信秀

莉朋は本当によくやってくれている。第2戦の岡山に続いて一貴がWEC（世界耐久選手権）に出場するので、再び彼に乗ってもらった。岡山でもそうだったけれど、速さがあることに頼もしさを感じる。スーパーフォーミュラライツと掛け持ちの状況でよく切り替えてドライブできることに感心してしまう。トムスでF3時代から走っているいろいろなことを学んできた成果だ。一方、ニックはどうしたのだろう。大事な大事なQ3のアタックへ向かう直前にエンジンストール。これは完全にドライバーのミスだ。そして、チームとしては万が一このようなミス、アクシデントが起こったとしても時間切れにならないような処置を取るべきだ。もう少し時間に余裕を持たせていたら、このようなノータイムという結果にはならなかった。

天候：晴れ・ドライ / 気温：22-20℃ / 路面温度：28-28℃

好天に恵まれた全日本スーパーフォーミュラ選手権第4戦、オートポリス。

午後に行われた決勝も暖かなコンディションの中で41週の決勝がスタートした。スタートポジションをキープしながら徐々に順位アップしていったニック・キャッシュは、セーフティーカーが導入された直後に多くのチームがピットイン、タイヤ交換義務を消化したが、ステアアウトして走行を続行、終盤に勝負する作戦に出て、7位フィニッシュ。宮田莉朋は、13周してピットイン、終盤にポジションアップして8位でフィニッシュした。



- タイヤ交換の義務は、10周終了時点から40周終了までに消化しなくてはならない。
- キャッシュは、スタートポジションを維持しつつ、脱落する上位走行車の分ポジションを上げて行った。
- 10周を過ぎて、13周目に2度目のセーフティーカー導入で大半のマシンがピットインしたが、キャッシュは走行を続行して、2位までポジションアップ。
- 宮田は13周してピットイン。10位でレースに復帰した。
- レースの終盤まで引っ張って、後続との差を開いてピットイン後にできるだけ上位でゴールする作戦に出たキャッシュは、37周してピットイン、8位でレースに復帰。前を走行していた宮田を39周目にパスして7位フィニッシュ。4ポイントを加算。ランキング2位を守った。



Driver

Car No.

Race / Fastest Lap

宮田 莉朋	36	P8 1'29.221
ニック・キャッシュ	1	P7 1'27.554

天候：晴れ・ドライ / 気温：22-20℃ / 路面温度：28-28℃



36 / ドライバー

宮田 莉朋

前回の岡山でスタートを失敗してしまったので、今回はクラッチミートに気を付けました。前の2台に並ぶことができずと思っていましたが、後ろからニックさんに勢いよくこられて、彼は加速できるラインでしたが、ボクは3ワイドの真ん中でどちらにも行けず、ここで接触してしまったら、元も子もないという状態でした。1周目にエンジンが吹けないコーナーがあって、ストレートに戻って来て、また抜かれて順位を落としてしまいました。その後は、数珠つなぎの状態でも順位も上げられずに走行するという展開でした。41周をどう走り切るか考えたり、オーバーテイクボタンを使われて抜かれないように後ろのマシンに注意を払っていました。ピットインのタイミングは、もう一周早くても良かったかと思います。結局皆と同じ周にピットインしたので、ピット作業は良かったのですが、ジャッキがダウンされていてもファーストレーンに次々と他のマシンが繋がっていて、コースインが遅れてしまい順位ダウン。Q3でニュータイヤを使い、グリッド順位がもっと上であったなら、また違った展開だったろうなと思いました。



1 / ドライバー

ニック・キャンディ

ステアアウトの作戦というか、当初から15周目くらいにピットインする作戦だった。そして、13周したら皆がピットインして前に出られたので、そこからペースアップして、後続との差を開くことにした。自分のペースはさほど悪くはなかったと思うけれど、前を行く山本選手のペースが全然落ちず、差を広げられる状況になってしまった。後ろからも差を詰められていたので、タイヤのパフォーマンスが落ちて来た38周目にピットインした。最後に宮田選手をパスしてポジションを一つ上げることができた。ランキングトップの亮（平川）がポイントを獲得できなかったのでもポイント的には差を詰められたけれど、今シーズンは有効ポイント、ベスト5のポイント加算だからランキングの行方はまだまだ分からない。



36 / レースエンジニア

大立 健太

今回はスタートも決まって、1コーナーで順位を上げられるかなと思ったのですが、逆に抜かれてしまいました。レース中のペースは悪くはなかったと思いますが、集団の中では思うような展開に持ち込めなかったですね。そして、ピットインのタイミングは、チームサイドの判断が遅れてしまいました。これはこちらのミスですね。結局皆と同じタイミングになってしまって、そしてコースインも遅れてしまったので、順位を落とすことになってしまいました。申し訳なかったです。それでも、ポイントを獲得してレースを終えることができました。仮にこれから先、宮田選手がドライブするチャンスがあったならもっと上位を狙いたいです。

天候：晴れ・ドライ / 気温：22-20℃ / 路面温度：28-28℃



1 / レースエンジニア

小枝 正樹

岡山と同じパターンでセーフティーカーのタイミングでもステアアウトしたのですが、作戦としては15周くらいでピットインさせる予定にしていたので、セーフティーカーのタイミング云々ではなかったのです。そこからは引っ張って、できるだけハイペースで後続とのギャップを築こうとしていたのですが、思いの外ギャップを築くことができませんでした。ホンダエンジン勢が結構速くて、相対的にこっちのペースが良くなかったということになってしまいました。ピットイン後は、フィニッシュに向けてタイヤの内圧を調整して送り出したので、燃料も少なくなって、軽いマシンで自身のベストタイムを叩き出し、宮田選手をパスして7位でゴールすることができました。



チーフエンジニア

東條 力

スタートポジションから考えると二人共に展開としては悪くなかったと思います。ニックは途中から作戦を変更して、岡山のように終盤まで引っ張ることになりましたが、思うようにギャップを築くことができなくて、予選結果から一つだけ順位アップしてレースを終えました。莉朋に関しては、ピットインのタイミングでミスしてしまって、順位を上げられませんでした。チーム側の判断がちょっと遅れてしまいました。あと1周早かったら確実に順位はアップできていたでしょう。ここに来て、ホンダエンジン勢が速さを増していることが気になります。何とか巻き返したいですね。



総監督

舘 信秀

二人のドライバーが共にポイントを獲得してこの第4戦を終えることができたけれど、終わってみれば、ほぼスターティンググリッドのままの結果だったことは残念だ。今回もセーフティーカーの導入でレースが動いたけれど、作戦を分けた形となった我がチームにとっては、どちらの作戦も上手く順位をアップすることができなかった。ニックのチャレンジも、岡山のようにうまく行かなかった。相対的にホンダエンジン勢のペースがトヨタよりも上回っていたのかな。ドライバーからホンダエンジンのストレートの速さを指摘するコメントがあったけれど、その部分は今後のレースに向けてトヨタさん、TCDさんに頑張っていたきたい。